



つがるの昔っこ 33 (昔話)

猫屋敷③ (津軽弁)

国土交通省 東北地方整備局
岩木川ダム統合管理事務所
イラスト：やざわ ゆな
カラーリング：みやかわ みなみ

さあ、宿屋さ帰（もど）って紙包みば開げで見だきや中がら十枚もの小判出できたど。



それば見だ女将のお杉、お梅がらわげば聞いて
『あらあ、へば私（おら）も山さ行ってくるじゃ。女中のお前（め）でも小判十枚だば、
主人も私（おら）だば百枚もらえるかもしれね』
お杉、大急ぎで支度して、山さ登って行っただ。
そしたら、お梅の言うとおりの大（で）っただ屋敷の所（どこ）さ来た。



『もしもし、私は可愛（めこ）がってら猫のタマに会いに来ました。今晚一晚泊めてください』
て大声で叫んだど。

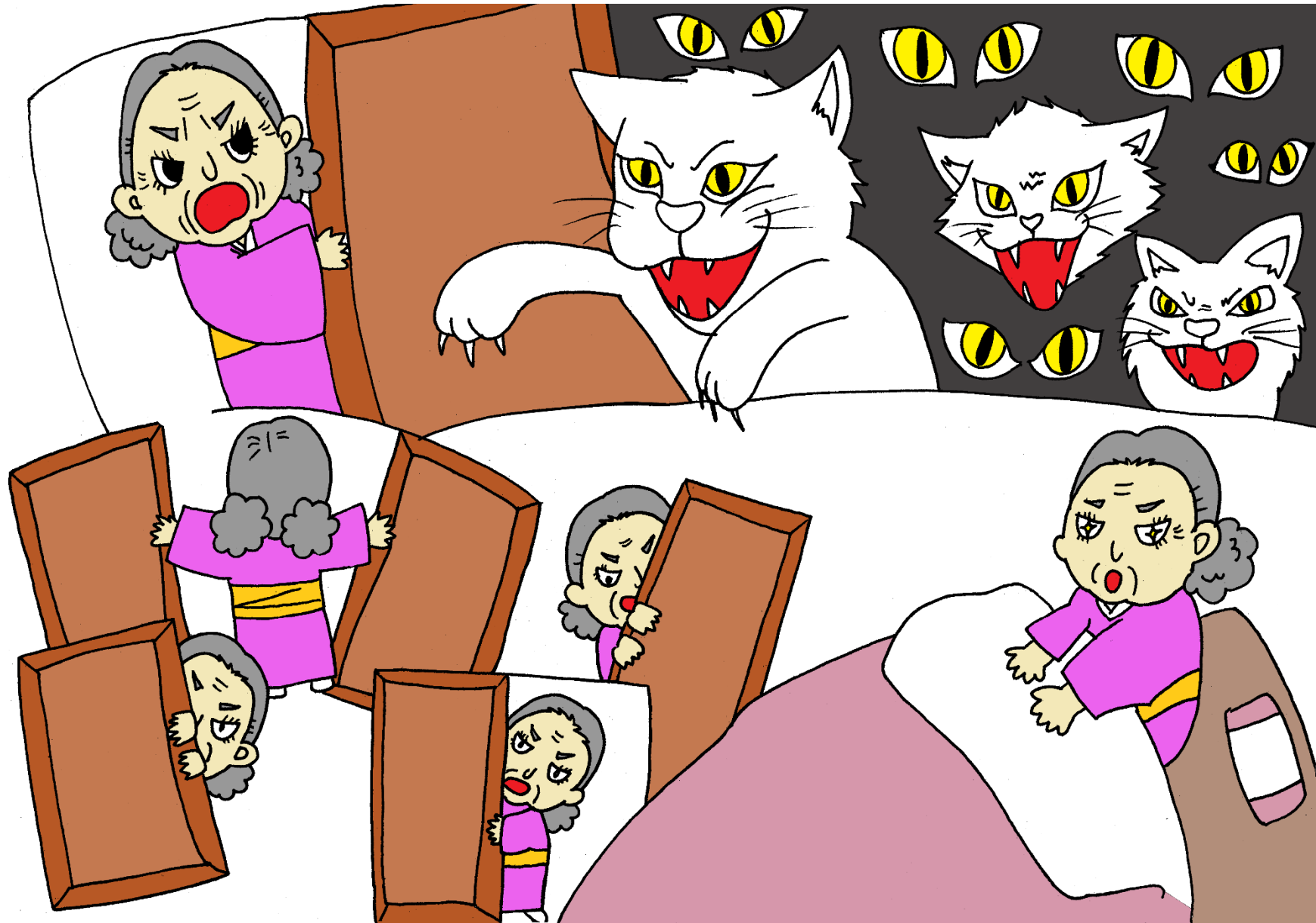
したきや中がら婆様（ばさま）出で来て中さ案内してけだど。
まんまも食（か）へで、布団こ敷いで寝へでけだ。



欲張りのお杉、夜更けでがら起き出して『小判どこだべ、小判どこだべ』て次々ど部屋ば開げで見だど。

最後に廊下の突き当たりの部屋ばガラッと開げだきや、何百匹もの猫達あ、らんらんと目(まなぐ)ば光らせで、こちばにらんであたど。

猫達あ、フウツッってして毛ば逆立でで、今にも飛びかかってくるんたであた。



もう小判どごでねえ。怖くて怖くて、ブルブルど震えで、息アつまりそうになった。
したきや、そごさ、自分の宿屋さいだタマが入って来たど。

『あ、タマ、タマでねが。私（わ）、汝（な）さ会いたくて、こごさ来たんだ。さ、一緒に帰るべし』

お杉、必死になって、タマさ話しかげだど。



タマ、お杉ばギロツつとにらんで『何をしらじらしい。お前アよぐもよぐも長（なげ）え
あいだ我（わ）とばいじめでけだなあ』てして、一声大きぐ『ニャアオオオオオオオ！』
で鳴いだど。



したきや、部屋の猫達あ一斉に『ギャーツ！』て叫んで、次々とお杉さ飛びかかって来たど。

さ、お杉あどうなったがさ、わがれすべ。

欲張る者ど、他人や生き物を傷つける者は、最後はろぐだ死に方はしねえ…ず話コだ。

